

JAMトピックス

身近な政策課題を討議

JAM政策・制度要求中央討論集会を開催



4分散会に分かれテーマごと討議

JAMは、「わかりやすい身近な政策」を作り上げていくために、「2023年度政策・制度要求中央討論集会」を6月11～12日に東京・両国「KFCホール」を主会場にWeb併用で開催した。

討論集会は、労使の話し合いでは決められない4つのテーマごと（Ⅰ.ものづくり現場に活力を・産業政策関連 Ⅱ.雇用と労働条件のさらなる向上をめざす・労働政策関連 Ⅲ.安心して働き暮らせる制度の確立・社会政策関連 Ⅳ.暮らしの安心・安全を確保する・防災対策関連）に、分散会で討議した。職場の実態や組合員の生活実感から、率直な意見を取りまとめ、2024年度要求項目をJAMの組合員とつくり上げていく。

安河内JAM会長は「労働組合が自分達の生活、自分達の街づくり、自分達の産業を守り、発展させていくためには、社会的な対話に参加することは極めて重要なことである。我々には社会を変えられる力があることを自覚し、そのうえで常に学び続け、議論を重ねていくことが非常に重要である。様々な討論に対して積極的に参加してほしい。また、JAMの政策実現をするためにも『こおりやまりよう郡山玲』を国会に送らなければならない。二度と負けることは許されない」と強調した。

「郡山玲」は、第27回参議院議員選挙比例代表のJAM組織内候補者として第42回中央委員会で決定した。「郡山玲」の決意表明で「皆さんの活発な議論がエネルギーになる。2年後の選挙に向けて走り続けていきたい」と支援の協力を仰いだ。

また、JAM準組織内国会議員の村田享子参議院議員からは、当選からの活動、参議院の経済産業委員会委員、予算委員会委員、消費者問題に関する特別委員会委員などの活動報告がされた。

参加は、地方JAM・大手労組会議から総勢266人。

今集会で出された意見は、2024年JAMの政策・制度要求（案）に反映され、8月の定期大会で提起される。



決意表明する郡山玲氏(左)国政報告をする村田享子参議院議員(右)